

### NPO法人皮膚「光老化」啓発プロジェクト

## 新規効能「日常的に使用することで光老化を防ぐ」の認可に向けて

化粧品56番目の効能表現に「乾燥による小ジワを目立たなくする」が加わったのは2011年7月。以来、化粧水、クリーム、シートマスク、オイル、クレンジング、石鹸など様々なアイテムで訴求され、社会的なアンチエイジングニーズと相まって「抗シワ」カテゴリーが化粧品市場を活性化している。そうした中、次なる効能表現の認可への動きが始まった。今後、日焼け止めに「日常的に使用することで光老化を防ぐ」と表記できるかもしれない。このキーワードとなるのが「光老化」だ。

光老化とは、紫外線などの太陽光線を浴びることで皮膚に現れるたるみ、しみ、しわ、たるみといった悩みは、加齢だけでなく光老化が密接に関わっている。

「二の腕の内側と顔を見比べてみると、自然な加齢による本来の皮膚と、光老化の影響を受けた皮膚の違いがはっきりと分かる。顔面皮膚老化の実に約80%は光老化によるものだ」と話すのは、20年以上に渡り「光老化」関連を研究している京都大学・宮地良樹名誉教授。

宮地教授はNPO法人皮膚の健康研究機構(略称・HIRS/所在地：東京都千代田区、原田昭太郎理事長)の

理事を務めており、HIRSの川島眞副理事長(東京女子医科大学皮膚科教授、日本化粧品学会理事長ほか)や、皮膚科教授、日本化粧品学会理事長ほか)や、錦織千佳子氏(神戸大学皮膚科教授、日本光医学・光生物学会理事長ほか)など5名で立ち上げた「光老化」啓発プロジェクト」委員会の1人でもある。

この「光老化」啓発プロジェクトは、16年1月〜17年6月までの1年半を実施期間として、全国民に対して光老化の認知度を高め、老徴のみならず皮膚病及び眼障害の予防に通じることや、サンスクリーン製品の適切な使用で光老化を防止できることを啓発し、国民の健康増進、医療費削減に寄与することを目指すもの。HIRSの同委員会が主催し、日本皮膚科学会、日本光医学・光生物学会、日

本化粧品学会、日本化粧品工業連合会、日本眼科学会、関係省庁などの後援と、化粧品・製薬関連企業、美容関連企業、眼鏡・レンズ関連業界、フィルム関連業界などの協賛を予定している。

昨年12月にはプロジェクトの始動に先立ち、都内で説明会を開催。これに出席した宮地理事は前述の言葉に続け「光老化の影響が目立ち、老けて見られやす

い」と話し、さらには「例えば光老化によるシワは、生理的に起るちりめん状の細かいものとは違い、深く刻まれたものであり、質的にも異なる加齢現象が起る。光老化は、太陽光線の6割を占める紫外線の曝露の強さと長さにはほぼ比例するので、屋外労働者などは光老化の影響が目立ち、老けて見られやす

い」と話し、さらには「皮膚癌の90%は顔や手足などの日光露出部に生じ、緯度が赤道に近くなるほど白内障の有病率が高まるといった実態を紹介した上で、光老化への対策として、帽子、日傘、サンングラス、厚手の衣服、日焼け止めなどによる物理的・化学的な「光防御」を日常的に行うことの重要性を訴える。

実は、川島副理事長は「光老化」に関する意識が低い。日本化粧品学会(現在理事長)では2006年から、使用方法で「SPF15以上、PA1+以上」のサンスクリーンの効果を有する化粧品を「日常的に使用する」という新規効能の認可に向けて尽力したが、5年前に実現できなかった。こうした挫折が今回、プロジェクトに繋がった。だが、この「SPF15、PA1+」と



説明会の様子

「光老化」を一般生活者がどれほど知っているのか。HIRSが昨年10月に12〜70歳312名(男女各156名)を対象に実施したインターネット調査では、「光老化」について「意味も含めて知っている」のは42%で、「聞いたこと

はない」は9.6%。実に85%以上の人々が「知らない」。

さらにそれに呼応するよう、紫外線対策に有効的な日焼け止めにおいて、「日常的に使用」は女性24.4%、男性3.2%に留まり、最も使用率の高い「日

ずは「光老化」という言葉に興味を持ってもらいたい。16年の流行語大賞を獲得する意気込みで、「光老化」が世の中に散乱するよう仕掛けていきたい」と奮起する。

「光老化」に関する意識が低い。日本化粧品学会(現在理事長)では2006年から、使用方法で「SPF15以上、PA1+以上」のサンスクリーンの効果を有する化粧品を「日常的に使用する」という新規効能の認可に向けて尽力したが、5年前に実現できなかった。こうした挫折が今回、プロジェクトに繋がった。だが、この「SPF15、PA1+」と

## まずは「光老化」という言葉の普及が急務

「光老化」を一般生活者がどれほど知っているのか。HIRSが昨年10月に12〜70歳312名(男女各156名)を対象に実施したインターネット調査では、「光老化」について「意味も含めて知っている」のは42%で、「聞いたこと

はない」は9.6%。実に85%以上の人々が「知らない」。

さらにそれに呼応するよう、紫外線対策に有効的な日焼け止めにおいて、「日常的に使用」は女性24.4%、男性3.2%に留まり、最も使用率の高い「日

ずは「光老化」という言葉に興味を持ってもらいたい。16年の流行語大賞を獲得する意気込みで、「光老化」が世の中に散乱するよう仕掛けていきたい」と奮起する。

「光老化」に関する意識が低い。日本化粧品学会(現在理事長)では2006年から、使用方法で「SPF15以上、PA1+以上」のサンスクリーンの効果を有する化粧品を「日常的に使用する」という新規効能の認可に向けて尽力したが、5年前に実現できなかった。こうした挫折が今回、プロジェクトに繋がった。だが、この「SPF15、PA1+」と

「光老化」を一般生活者がどれほど知っているのか。HIRSが昨年10月に12〜70歳312名(男女各156名)を対象に実施したインターネット調査では、「光老化」について「意味も含めて知っている」のは42%で、「聞いたこと

はない」は9.6%。実に85%以上の人々が「知らない」。

「光老化」に関する意識が低い。日本化粧品学会(現在理事長)では2006年から、使用方法で「SPF15以上、PA1+以上」のサンスクリーンの効果を有する化粧品を「日常的に使用する」という新規効能の認可に向けて尽力したが、5年前に実現できなかった。こうした挫折が今回、プロジェクトに繋がった。だが、この「SPF15、PA1+」と

「光老化」に関する意識が低い。日本化粧品学会(現在理事長)では2006年から、使用方法で「SPF15以上、PA1+以上」のサンスクリーンの効果を有する化粧品を「日常的に使用する」という新規効能の認可に向けて尽力したが、5年前に実現できなかった。こうした挫折が今回、プロジェクトに繋がった。だが、この「SPF15、PA1+」と